

## 本町サポセン、お疲れ様にはまだ早いが

「仙台の市民活動のたまり場」、仙台市市民活動サポートセンターは、1999年6月に開館して以来、6年強を経過しました。この間の延べ利用者は20万人を越え、内外からの視察も700件にのぼる市民活動業界の拠点として機能してきました。

しかし、竣工から40年を越え、風雪に耐え続けた建物は雨漏りが頻繁に生じるようになり、補修もまま成らず、耐震性への不安もあり、移転することとなりました。

今度のサポセンは、広瀬通に面した日専連ライフサービスが所有する通称「ビーブ」という建物を使用し、来年の9月1日開館予定です。地上7階地下1階建て、8フロアーの建物で、地下1階は「ビーブ・ベースメント・シアター」として小規模なコンサートや演劇などの講演に利用されているので、ご存じの方も多と思います。

現在、仙台市の市民公益活動促進委員会や当センター等により、移転を機として新たな市民活動支援とサポートセンターの有り様について検討を行っています。

私は、本町サポセンが好きです。その良さを「サンダル履きで、ふらっと寄れる」と形容しています。故に、時としてビーブのピカピカの外観、大理石張りのエントランスには抵抗も感じます。ピカピカになっても本町サポセン同様に「サンダル履き」でご利用いただける雰囲気づくりにスタッフとともに取り組んで行こうと考えています。ビーブサポにご期待ください。

ここでサポ川柳

「名物は 雨漏りバケツ あと1年」

12月14日に移転に関する意見交換会がピカピカのビーブ6階で開催されます。ぜひご参加ください。

せんだい・みやぎNPOセンター理事 黒澤 学

## 内 容

ドナーの学校事業報告、せんだいCARESオープニング報告  
協働相談、センターサロン、新スタッフ紹介  
らくだのブック、BOOK、事務局活動報告、など



イラスト 大友 和佳子さん

## 「ドナーの学校」事業進行中！！

# 12月9日「12月のドネーションパーティー」開催

「ドナーの学校」事業とは、市民とNPOの双方がともにNPOへの寄付について学び合うことを目的に、現在「芸術的募金箱コンテスト」「12月のドネーションパーティー」の2つの事業が進行しています。現在、当センタースタッフ・理事、NPO団体により、「OKOKORO TICKET」なる、ドネーションチケットを発売中です。気になった方は担当スタッフまでいつでもお問い合わせ下さい。お待ちしております！

### ●ドナーの学校とは？

ここでいう「ドナー」とは寄付者のことを指します。NPOの数や種類がますます多様となる中、活動資金の不足やNPO独特の資金調達の難しさ、資金に関わる様々な問題に直面しているNPOは多く、またNPOの活動に関わる資金の流れなどについて知らない市民が多いということもまた事実です。今後、よりNPOの活動を普及・浸透させていくためには、NPO自身が資金調達力を向上させていくこと、そして地域に生きる市民あるいは企業がNPOの活動を理解し、自分たちの地域のためにNPOを支える第一歩として、NPOへの寄付が行いやすい環境をつくっていくこと、が必要となっています。

そこで当センターでは、「ドナーの学校」事業を行うことにしました。この事業の目的は、

1. 人目を引いて、おもしろそうな募金箱を各所に設置することで、いつでも楽しく寄付をする機会をつくること
2. 日本ではまだなじみの薄い「市民がNPOに寄付をする」という行為を、楽しみながら理解し体験してもらうこと
3. NPOが、チケットを販売し市民と交流するという機会を体験することによって資金調達のひとつの方法を身につけていくこと

以上の3つです。このような事業を通じて市民とNPOの双方がともにNPOへの寄付について学び合うことを目的としています。また、2003年に開設された市民ファンド「みんなファンド」(正式名称：地域貢献サポートファンドみんな)の認知を高め、NPOと市民をつなぐ橋として、より活性化させていくということも大きなねらいの一つです。

そしてこの目的を達成するために、現在2つの事業を展開中です。

### 1. 「芸術的募金箱コンテスト」

NPOのみならず、多くの募金箱が街中にはあります。しかし、その箱の存在自体に多くの人が気づいていなかったり、関心がなかったりすることも事実です。

そこで当センターでは、「これなんだろう?」「きれいな箱」「変な箱」と思って人目を引き、よくみると募金箱だと気がついて、「ついつい寄付したくなっちゃう」ということがあれば、寄付が楽しくなるのでは、とこの企画を考えました。

一次審査通過作品は、市内のカフェ等10店舗で展示されます。また、一次審査通過作品は、その後も、県内各地の企業や施設などで「みんなファンド」の募金箱として貸し出されます。(なお、この募金箱は市民活動やNPOの資金支援をしている市民ファンド「みんなファンド」への関心を広めることも目的としています。)

### ◎最終審査結果発表

日時：12月9日(金) 18:00

会場：エル・パーク仙台 スタジオホール

入場券：1,000円(前売券、当日券)

審査員：吉川由美さん、ルナ・ピセンテさん、LOCOさん

(最終審査：12月9日16~17時

エル・パーク仙台スタジオホール)



みんなファンドのロゴマーク「みんなバード」と申します。よろしくお願ひします！

<募金箱設置店一覧>

店名	住所
カフェサンルウ.	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-42-1F
café haven't we met	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-9-2 第5佐々木屋ビル3F
カフェ・モーツァルト	〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-11-14 丸和ビル3F
カフェ・モーツァルト・アトリエ	〒980-0813 仙台市青葉区米ヶ袋1-1-13-B1F
KITCHEN BAR Poka Poka	〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-11-27 かねはちビル1F
クレープの店 PATTY	〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野1-29-1
PICCADILLY	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-12-1 結城ビル1F
book café 火星の庭	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-30
Merry's Selection	〒980-0821 仙台市青葉区春日町6-10 今野ビル1F
横道AGO	〒980-0822 仙台市青葉区立町18-12-103

2、「12月のドネーションパーティー」

NPOへの寄付を目的とする「OKOKORO TICKET (オココロチケット)」の販売、団体や活動内容の発信、市民との交流というドネーションパーティーを開催します。

このパーティーの仕組みは、NPOがチケットを販売するなど資金調達の方法について、自ら実践・体験し、今後の資金調達力向上へのきっかけを作ることとしています。

また、パーティーに参加いただく方には様々なNPOの活動に触れることによって、地域で活動しているNPOについての理解を深めてもらうとともに、自分の手で直接NPOに寄付をするという、「顔の見える寄付」を体験することで、寄付をする楽しさやNPOに寄付をする意義などを感じてもらい、NPOの活動を市民の寄付によって支えていくという文化や土壌作りにつないでいきたいと考えています。

当日はベガルタチアリーダーズも応援にかけていただける予定です。ぜひお越し下さい!

(担当スタッフ：紅邑、門間、大友、杉本)

ドネーションパーティー参加団体：(五十音順)

- ・ 子ども虐待防止ネットワークみやぎ (キャブネット・みやぎ)
- ・ (特活) グループゆう
- ・ (特活) 仙台夜まわりグループ
- ・ (特活) 麦の会
- ・ (特活) 宮城県断酒会
- ・ (特活) みやぎダンス
- ・ (特活) ミヤギユースセンター

日時：12月9日(金) 18:00~21:00

会場：エル・パーク仙台 スタジオホール

入場券：1,000円(前売券、当日券)

※「OKOKORO TICKET」が入場券となり、参加団体の活動資金となります。

みなさんのオココロお待ちしています!

(門間裕美)

12月のドネーションパーティー  
OKOKORO TICKET  
¥1,000

～あなたの「あ心」ありがとうございます～  
日時：2005/12/09(金) 18:00～21:00  
会場：エル・パーク仙台 スタジオホール  
仙台市青葉区一番町4-11-1 14Fビル内 TEL:268-8300(代)

みんみん  
ファンド

OKOKORO TICKETを購入していただいたお金は宮城県内のNPOの活動資金となりこの町をもっと元気にする活動に使われます

OKOKORO TICKETを投じたNPOへ500円寄付されます。

NPO・市民活動を応援する「みんみん」ファンドへ500円寄付されます。

各団体が活動を充実させるキッカケに! 県内で活動するNPOへの助成金に!

主催：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター  
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-7 舞元ビル4F  
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209 E-MAIL:minmin@minmin.org URL:http://www.minmin.org/  
■ この事業は社会福祉法人宮城共同募金会の配分金で運営されています

「OKOKORO TICET」購入していただいたお金は宮城県内のNPOの活動資金となりこの町をもっと元気にする活動に使われます。

## せんだいCARES2005オープニング 仙台のまちづくり活動を体感！

11月5日(土)にせんだいメディアテーク1Fのオープンスクウェアにてオープニングセレモニーを実施しました。今年もたくさんのチカラが集結し、昨年とはひと味もふた味も違ったオープニングになりました。たくさんのチカラの中から、文字数の都合上、5つのチカラをピックアップしてご紹介します。

★その1、NPOのチカラ★ 34のNPOが大集合。それぞれのブースでPRをするほかに、今年は新たに仙台市民メディアネットの協力により、NPOの活動紹介を大型スクリーンに映し出す生放送にチャレンジしました。

★その2、実行委員のチカラ★ 事務局窓口、Tシャツ販売、募金集めや福袋作成、写真撮影…。様々な役割を分担し、縁の下のチカラ持ちぶりが大いに発揮されたと実感しました。

★その3、櫻田彩子さんのチカラ★ 第1回のオープニングに続き、今回で2度目の司会をボランティアで引き受けて頂きました。明るい笑顔で、長丁場のオープニングセレモニーを難なくこなす技に、プロの根性を垣間見ました。

★その4、ステージ披露団体のチカラ★ 仙台ゴスペル・フェスティバル実行委員会より、Delighted Grooversが出演。勢いを与えてくれました。その後、ホゴノプロフィスのジャグリング、ロータスのマリンバ演奏、クブクブのバリ舞踏、菅野洋子さんの癒しのピアノ、最後に7人のベガルタチアリーダーズの声援が元気に締めくくりました。

★その5、CARESオークションのチカラ★ オークションは初めての試みでしたが、仙台スポーツリンクさんより、仙台89ersの佐藤真哉選手と日下光選手のサイン入りユニフォーム、楽天野球団さんより、人気5選手のサイン入りベースボールカードセット、鈴木魁文堂さんより文房具、一ノ蔵さんより日本酒などのご協力により、4万3500円もの募金を頂きました。

今年は、4万部のパンフレットを作成し、実行委員のパイプをフルに活用し、市内各所に設置しています。3年目となり情報がたくさんの方々へ届く土台が出来てきました。(遠藤孝志)

### 報告 協働事業の強い味方「協働相談所」開設！

仙台市市民活動サポートセンター(以下サポートセンター)では、毎月一回「協働相談所」を開設しています。今年六月からスタートした「協働相談所」ですが、十月までの相談件数は、NPOから三件、仙台市の部局担当から二件となっております。相談に応じるのは、サポートセンターの指定管理者である、当センターと仙台市市民局地域振興課市民活動支援室です。全国的にみてもNPOと行政が協働で協働相談を行うというのは先駆的と言えるでしょう。

「協働相談所」設置までの経緯をふりかえってみます。今年一月に、仙台市では、市職員向けの「仙台協働本(以下せんだい・いっしょん)」を協働を成功させる手引きを作成しました。その作成のために、部局が異なり年齢構成もさまざまな職員による協働推進ワーキンググループが組織されました。当センターも、協働についての専門性や、ワーキングを進めるにあたってのノウハウを活かしたアドバイスをを行うなど、「せんだい・いっしょん」の作成に関わりました。そうしたプロセスを経て「せんだい・いっしょん」は出来上がりしましたが、協働の意味の理解がすすんでいない、協働事業企画の進め方、協働相手の選定などがわからない、また実施後のトラブルが多いなど、事業の現場での課題は多様であることがわかってきました。そこで、この相談が開設されたわけです。

「協働相談所」に寄せられたこれまでの詳しい相談内容は、仙台市市民活動サポートセンターのホームページからご覧いただけます。また、「せんだい・いっしょん」も同ホームページよりダウンロードできますので活用ください。なお、NPOの相談はサポートセンターで、仙台市職員の相談は地域振興課市民活動支援室にて受け付けています。

お気軽に仙台市市民活動サポートセンター、地域振興課市民活動支援室までお問い合わせください。

(眞壁さおり)

## 報告 センターサロン

■9月27日

～忙しいNPOスタッフに効く&聞く～  
心と体のセルフコントロール術

NPOに関わる人たちは活動に熱心なあまりオーバーワーク気味になりがちです。心と体は密接に関連しています。心身ともに元気に活動するにはどうしたらよいのでしょうか。

サポートセンター窓口でお会いする利用者は魅力的な方たちがたくさんいます。徹夜をしてもどんなに忙しくても明るくはつらつとされ、健康づくり活動をされている、仙台市太極拳協会の鹿島眞理さんとJRF A足市場の森照恵さんをゲストにお招きして、その秘訣を教わりました。

参加者は11名。始めに太極拳とフットケアをプチ体験して自分の体のくせ（ゆがみ）とその矯正方法や体のほぐし方を学び、後半の交流会はハーブティと福祉作業所で作ったおいしいケーキを頂きながら活発に意見が交換されました。参加者から「疲れたと感じる時」や「こういう時の対処法は?」、「私の癒し術とスポット」をテーマに、ゲストを中心にその対処法などを話し合い、時間が足りなくなるくらいでした。

参加者同士共通の悩みをかかえていることが分かり、自分だけの悩みではなかったことで気持ちが開放されたという声が生まれました。ゲストも参加者も日常の活動ではほぼ接点が無い方達との初めて出会いがあり、今後もこのような企画をしてほしいとの要望が多くありました。(佐藤友里)

■10月17日

NPOのための指定管理者情報交換会

現在、指定管理者の3団体（3施設）、受託者の1団体（2施設）、施設運営を検討している6団体の関係者が集いました（他、1団体3施設の情報提供あり）。

はじめに3団体から、それぞれ諸条件が異なる管理運営の実情について伺いました。「事業が拡大しているのに人件費は平行線。スタッフのスキルアップに昇給が伴わない。」「指定管理期間を契約期間の最長とせざるを得ない、不安定な雇用形態になってしまう」などの課題も上げられました。

また、合併に伴ない施設の設置主体が変わり、行政との関係に課題が生じていること。ノウハウを蓄積し、これからという時に指定管理期間が終わってしまう。次期申請はするものの、引継ぎの準備をすることに労力がとられているなど、具体的な話題は、これから申請を検討している団体への貴重な情報提供となりました。

一方、現実的かつ具体的な情報交換から、「施設として行っている事業は決して採算がとれるものではなさそうだが、なぜNPOが指定管理者になるか?」という質問も投げかけられ、参加者からは、施設管理で何を成していくか、地域住民が施設管理に参画することの重要性などの意見が交わされました。(青木ユカリ)

- ①氏名：小林 正夫（サポートセンター勤務）
- ②出身地：埼玉県行田市（昔は足袋の生産地で有名でした）
- ③特技：小学校5年の時から始めた剣道。高校時代に3段を取得しました。将来は剣道の「心・技・体」の精神を持って、子どもたちの育成の場に参加できればと思っております。
- ④抱負：まだまだ好奇心が旺盛で「ダジャレ」も交わす、団塊の世代ですが若さを保つように心がけております。体で仕事を覚え、早くNPO支援のこの仕事が一人前にできるよう取り組んでまいります。また個人的に、NPOの活動にも参加しようと思っております。

### ●新スタッフ紹介

11月から勤務をはじめました

- ①氏名：大友 和佳子（大町事務局勤務）
- ②出身地：宮城県（名取市）
- ③特技：絵画 バレーボール 水泳
- ④抱負：地域をベースとした支援の枠組みに興味があり、勤務させていただいています。始めは業務に対して戸惑いも多かったのですが、諸先輩方のご助言のおかげでなんとか 確実な積み重ねができています。少しでも貢献できるよう主体的に業務に取り組みたいと思います。

BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブクブク◆ vol.18

あなたのショーガイカン。

常務理事・事務局長 紅邑 晶子

普段は登れた舗道の段差も、捻挫をしたとたん障害物になります。また、加齢によっても、視力や筋力、腕力が変化して、日常生活の中に新たな障害を感じるが増えてきます。2007年以降、60歳を迎える人口は増えつづけ、少数の障害者が体験していた「稀な障害」が一気に「よくある障害」となることは明白です。

また、ニートと呼ばれる人たちが就職できない(しない)原因の1つに、社会経験の少なさやコミュニケーション不足があると思いますが、彼らもある意味で障害者です。このような障害者への支援はどうなっているのでしょうか。

こんなことを考えながら、このところわたしは、「障害」とは何をもって障害と言うのかと思っていました。そんな時、先日10周年を迎えた「グループゆう」さんの記念式典での基調講演者・戸枝陽基(とえだひろ

もと)さんのお話を聞く機会がありました。「これからの時代は、哀れみの対象となる人が、増える時代になる。そして、障害を持つ人がスタンダードになる」と戸枝さん。そして、戸枝さんが理事長を勤めている2つの施設では「障害観」をどのように定義しているか、次のように話しました。「障害とは、生きにくいこと。生きにくさを感じている人は、障害者」「生きにくさを包みこむのが福祉。生きにくさは、支援があれば変えられる。それは、住む保証と働く保証、生きがいづくりの保証をクリアすれば(支援すれば)、生きやすくなる。そして、人の支援があれば、道具がなくても生きやすくなる。」

納得、納得。私のモヤモヤしていた「ショーガイカン」は見事にわかりやすい「障害観」に変換されました。さて、あなたの「ショーガイカン」は変化しましたか?

この本を読んでもみようと心が動くのは、タイトルに惹かれるのと、ある種の期待感からであろう。期待感の一つは団塊世代の自負心回復への期待である。私を含めた団塊世代は、生まれながら競争の社会で生き抜き、真面目に働き、家族を養い、税金もしっかり払い、さあ、あと数年でゴールだと思ってきた。だが、世の中が起きている解が、世の中ではない。バブルの崩壊と共にリストラのお荷物扱いを受け、社会になかった。俺たちは団塊世代が何か悪いことをしたとでも言うのか。これに対する反論(正論?)に期待感をもちたい。

二つ目は退職後の生き方へ対する指針への期待である。団塊世代は貯蓄と年金をあてにしながらの安定した生活を望んでいないが、しかし年金生活に埋没するのでは決して望んでいないのである。まだまだキャリアアも体力も自負もある。長い人生どう生きていくか真剣に考えている世代でもある。パソコンも携帯も多少できるし、一昔前の定年退職者とは一味違うのである。ただ何をしたら良いのか何から手を着いたら良いのか全く漠然としている。これに対する指針に期待感をもつのである。

読み終えてみると、本書はこれらの期待感に期待通り答えてくれている。何故か?それは著者が昭和二十二年生まれの団塊世代当事者であり、かつ将来を見据え退職し独立した実践者だからである。またキャリアを生かし地域に密着した活動を展開し、見事に我が人を紹介されている。一団塊世代諸氏には是非一読をお勧めしたい。(関口憲一・団塊世代)

BOOK

「24時間戦いました」  
団塊ビジネスマンの退職後設計

布施克彦 著

ちくま新書 発行

680円(税別)

活動  
報告事務局活動報告  
(9/4~10/20)

## ■事務局/自主事業関連

- ・ 大町全体ミーティング (9/5・10/7)
- ・ せんだいCARE S実行委員会 (9/6・10/6)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (9/9・20・10/7・17)
- ・ サポート資源提供システムパソコン提供説明会 (9/12)
- ・ 経営会議 (9/15・10/13)
- ・ 理事会 (第76回: 9/22・23 第77回: 10/20)
- ・ センダードサロン「心と体のセルフコントロール術」「NPOのための指定管理者の情報交換会」(9/27・10/17)
- ・ センター会議 (9/28)
- ・ 職員採用面接 (9/28)
- ・ 第10回 評議員会 (10/4)
- ・ 目標管理会議 (10/11)

## ■NPO/企業関連

- ・ (財)東北開発研究センターコミュニティ再生研究会委員 (9/8・11・12・30・10/18 加藤)
- ・ 住民自治における社会教育の新たな可能性~NPOと社会教育行政の役割~「地域づくりを支える中間支援組織」/主催: 日本社会教育学会 (9/16 加藤)
- ・ 広報・地域交流部門管理職研修/主催: 東北電力(株) (9/16 大滝)
- ・ 市民活動講座「基礎編」/主催: (特)くりはら活性化ネット (9/18 紅邑)
- ・ 助成財団研修セミナー「助成という仕事とプログラムオフィサーの役割」/主催: 日本財団 (9/26 紅邑)
- ・ 全国シンポジウム「日本のNPO政策この7年」/主催: (特)市民フォーラム21・NPOセンター (9/29 加藤)
- ・ 全国女性会館協議会交流・研究集会/主催: 全国女性会館協議会 (10/20 紅邑)
- ・ うつくしまエコリーダー研修/主催: (特)超学際的研究機構 (10/20 遠藤智)

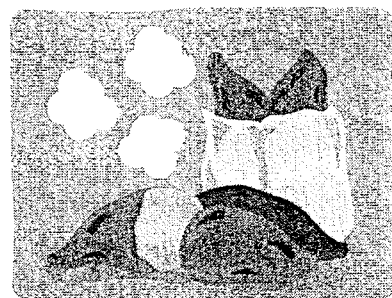
## ■自治体関連

- ・ コミュニティビジネス起業家セミナー「起業編」「カウンセリング」「見本市」/ (財)仙台市産業振興事業団 (9/6・13・20・26・27・10/7 加藤・遠藤・高橋)

- ・ 「NPOに関する部局研修会」/主催: 宮城県産業経済部 (9/7 加藤)
- ・ 「市民活動を進めるワスリート会議」「市民活動を進めるワーキング」/主催: 多賀城市 (9/7・10/12 加藤)
- ・ 相談業務技法1日研修・演習プログラム/主催: 柴田町社会福祉協議会 (9/8 青木・真壁)
- ・ ステップ2研修「住民協働」/主催: (財)ふくしま自治研修センター (9/9・22・10/5・13 加藤)
- ・ クリーン仙台推進員グループ学習会/主催: 仙台市環境局 (9/14・10/19 加藤)
- ・ 市民トラスの森「情報交換会」「講座」/主催: 仙台市建設局 (9/14・10/2・16 青木)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター「NPOいろは塾」「個人相談会」「活動ストーリーから学ぼう」(9/16・17・21・29)
- ・ NPOきらめき塾・上級編/NPOマネジメント講座/主催: (特)レスパイトハウス・ハンズ (10/1・2・8・9 加藤)
- ・ 宮城県民間非営利活動促進委員会拠点部会 (10/1 青木)
- ・ 女性のための起業家入門セミナー・ステップアップ編/主催: (財)仙台市産業振興事業団 (9/28・10/12 遠藤智)
- ・ 仙台市市民公益活動促進委員会 (10/13)
- ・ 地球環境基金評価委員 (10/14 加藤)
- ・ 栃木県NPO・ボランティア理解促進講座「NPOきほんのき~はじめの一歩とその可能性」/主催: 栃木県 (10/16 加藤)

## ■相談、ヒアリング関連

- ・ 経営相談 (9/21・10/18 加藤)
- ・ 取材: (有)クッド研究所
- ・ 視察: 韓国行政自治部



## サポート・ご協力 ありがとうございます

### ●平成16年度会員 (敬称略・順不同、2005年9月4日～10月20日)

(新規・正会員)

(特) すくすく保育研究所

(継続・正会員)

(特) いわてNPO-NETサポート、片桐和紀、青木ユカリ、大泉浩一、岡田真秀

(継続・準会員)

仙台商工会議所、昆野武裕

### ●企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

### ◆NPO経営相談

日程：12/20 (火)、1/11 (水)、

2/13 (月)

時間：13:00～17:00

会場：せんだい・みやぎNPOセンター

アドバイザー：加藤哲夫

相談料：2500円

(1時間単位、会員500円割引)

予約制です。まずはお電話を！

担当：青木

募集・講座紹介

### ◆12月のセンターサロン

～私のライフワークとNPO～

日程：12/12 (月)

時間：19:00～20:45

会場：仙台市市民活動サポートセンター

ゲスト：針生英一さん

ハリオコミュニケーションズ代表取締役

田代久美さん

宮城大学事業構想学部助手

参加費：700円 (お茶・お菓子付き)

定員：20名

担当：遊佐、真壁、遠藤 (智)、小松

発行：特定非営利活動法人  
せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F

tel 022-264-1281 fax 022-264-1209

E-mail minmin@minmin.org

http://www.minmin.org/

会費・寄付はこちらにどうぞ！

郵便振替：02260-3-16325

加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分



編集スタッフ：遠藤智栄、真壁さおり、門間裕美

## みんみん編集後記

■コミュニティビジネスのセミナーの受講生が実施する小さな実践のフォローで現場回りをしている。講義の時とはまた違った魅力ある顔を見ると、ますます応援したくなるから不思議。現場の力は偉大だ！（遠藤ち）

■2年くらいあまり大力ゼをひいていない。自転車通勤を始めたことが良かったのだと思う。雨の日も風の日もカッパを着て通勤している。音楽も健康には効果的。大声で歌を歌いながら自転車をこいでいる人を見かけたらそれは私です。（真壁）

■ドナーの学校、募金箱コンテストの担当になったことから、市内のカフェにお邪魔する機会が多くなりました。お店のみなさんはお客様との会話を大切にしている素敵な方で、とても優しい雰囲気に包まれています。ぜひ足を運んでみてください！（門間）

★寒くなります。お体ご自愛ください。